2021年12月26日　朝　礼　拝　順　序　（　午　前　10　時　半　）　（№52）

司式　熊田雄二牧師

前　　奏　　奏楽　豊島慶子姉妹

開　会　招　詞

＊賛　美　歌　15：1　わが主のみわざはことごとただし

たえなるみむねにすべてをまかせん

主はわが神なり　ともしき時の　わが助けなり　　アーメン

＊開　会　祈　祷

罪　の　告　白　祈祷書3　罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。　(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十　　戒　　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。　(出エジプト20、申命記5)

＊賛　美　歌　15：2　わが主のみわざはことごとただし

嵐の中にも安けく憩わん

主はわが父なり　悩める時のわが救いなり　アーメン

公同の祈祷　祈祷書４５　年末の祈り

世界と歴史を支配しておられる、主なる神さま、栄光はすべてあなたのものです。今年も御国が

進展したことを覚えて、御名を賛美します。この一年も、わたしたちの信仰と生活を支え、祈りと奉仕と献げものを尊い御業に用いてくださり、感謝します。わたしたちの苦労は、決して無駄に終わらないことを信じます。

天の父なる神さま、あなたは、おびただしい証人によって、わたしたちを取り囲んでおられます。わたしたちも、愛する聖徒たちと共に、信仰の創始者また完成者である主イエスを見つめながら、自分に定められた競争を忍耐強く走り抜くことができますように。主が栄光の内に再び来られるとき、朽ちない冠をいただくことができますように。(Iコリント9･15、ヘブライ12)

献　　金　　（黒）教会活動　（赤）改革派神学研修所　　70

今ささぐるそなえものを　主よ　きよめて受けたまえ　アーメン

聖　書　朗　読　　ルカによる福音書11章37～54節（新約聖書１３０頁）

説　　教・祈祷　　「内側の清さ」　　熊田雄二牧師

＊ 賛　美　　歌　　93　あめなる我が家

1　あめなる我が家を仰ぎ見れば　涙にかすめる目も晴れけり

2　この身は衰え世を去る時　喜びあふるる御国に生きん

3　嵐の襲わぬ主のみもとに　疲れし我がたま　ながく休まん　アーメン

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にます我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　栄　　69　父の御神に・御子に・聖き御霊に

父の御神に・御子に・聖き御霊に　昔ながらの御栄えあれや　アーメン　アーメン

＊ 祝　　祷

後　　奏　　（黙祷）

報　　告　　門脇陽子長老（司会・受付　次週：雨宮信長老）

本日　受付　１階：森永美保・加藤良明執事　２階：若月学執事　／　動画：門脇光生兄弟　録音：森永翔馬兄弟

次週　受付　１階：藤井牧子・大日南隆夫執事　２階：大日南信也執事／動画：　　録音：

※　２グループ制により、長老も１階と２階に一名ずつ加わります

211226　　ルカ11：37-54　　内側の清さ

Ⅰ　ワザワイなるかな

ルカ福音書の講解説教を続けますが、きょうは11章の最後の所です。と言っても、章と節はもともとないので、きょうの箇所でいったん区切りとなるわけではなく、12章に続いているようです。それは12章１節で、イエス様が弟子たちに「ファリサイ派のパン種に注意しなさい」と言っておられることから分かります。そのファリサイ派をこっぴどく非難しておられるのが、きょうの箇所です。

それにしても、どうしてこんなにも「ワザワイなるかな」とファリサイ派を非難されるのか、すでに学んだ所と、これから学ぶ所から確認してみましょう。

一つは、「安息日のおきて」の問題です。６章の最初の小見出しに「安息日に麦の穂を摘む」とあります。ある安息日に、イエス様と弟子たちが麦の穂を摘んで、手でもんで食べました。これをファリサイ派の人々は「人の麦畑に勝手に入って麦を摘んで食べるなんて」と非難したのではないのです。それは、貧しい者や旅人に許されていることを律法から知っていたからです。では何を問題にしたのかと言うと、「麦の穂を摘んで、手でもんだ」という農作業の労働行為です。

その次の小見出しに「手の萎えた人をいやす」とありますが、今度は病人やけが人をいやすイエス様のいやしのわざです。これも、いやすことを問題にしたのではなく、安息日に医療の労働をしたことを、ファリサイ派は問題にしました。この時、イエス様は怒りを含んでファリサイ派一同を見回しました。

安息日に病人をいやしたことの問題は、13章にも出て来ます。13章10節のところ、小見出しは「安息日に腰の曲がった婦人をいやす」とあります。この時は、ユダヤ教シナゴグの会堂長が腹を立てて、安息日に医療の働きをしてはいけないと言いました。会堂長ならファリサイ派でしょう。神殿であればサドカイ派です。この時、イエス様は、もうはっきりと「偽善者たちよ」と言い返しました。

14章にも最初の所に「安息日に水腫の人をいやす」と小見出しがあります。ここではイエス様の方から「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか」と、逆に答えを要求なさいました。律法の精神、神への愛と隣人愛から遠く離れた律法主義はワザワイであるからです。

このように何度も安息日の問題が出て来ます。それは、バビロン捕囚以来、方々に散らばっているユダヤ人はエルサレム神殿での礼拝ができないので、小さいシナゴグという会堂を作って安息日に集まっていたからです。安息日に律法を読むことが信仰生活の中心でした。そこで安息日に関してうるさいファリサイ派という教派が起こったわけです。

もう一つ、どうしてこんなにも「ワザワイなるかな」とファリサイ派を非難されるのか、その決定的な事が11章14節からの「ベルゼブル論争」にありました。イエス様が口の利けない人から悪霊を追い出してあげると、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を

追い出している」と悪口を言いました。そのことを12章10節でこう言っておられます。「人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒涜する者は赦されない。」　「人の子」はメシアのもう一つの称号ですから、神の御子イエス様のことです。イエス様を悪く言っても赦されるが、聖霊を悪く言う者は赦されない。私たちの心にズキンと来る言葉です。イエス様が口の利けない人から悪霊を追い出したのは、聖霊の働きでした。それを悪霊のしわざと言ったのです。イエス様を悪く言っても、悔い改めれば赦されますが、悔い改めの信仰を起こす聖霊を悪く言う者は赦されようがないのです。

「幸いなるかな心の貧しき者」とは対照的に「ワザワイなるかなファリサイ派の人々」と、きょうのテキストである11章37節からの段落は、なぜワザワイであるかを指摘しておられます。39節、「実にあなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。」　43節「あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好むからだ。」　お皿やお椀の外側は見える所ですから人への見せかけを意味していて、上席に着くことや挨拶されることに通じます。

「それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ」と、42節で言われます。「薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしている。」　律法の細かい掟には口うるさいが、中身の精神がもぬけの殻だ、と指摘なさいました。

Ⅱ　律法の専門家

ところで、話はイエス様がファリサイ派の人から食事に招待されたという場面でした。イエス様が食事の前に手を洗わないのだったら不衛生で問題がありそうですが、「食事の前にまず身を清められなかった」というファリサイ派の律法主義が要求する宗教上の問題でした。でも、もう食事どころではないでしょう。食事に招待された中に律法の専門家がいて、オレの出番だとばかり発言しました。「先生、そんなことをおっしゃれば、私たちをも侮辱することになります」。もちろん、イエス様はファリサイ派の中の律法の専門家にも言っておられたのですから、「あなたたち律法の専門家も不幸だ」と、容赦なく「ワザワイなるかな」と言われました。

ユダヤ教では、ファリサイ派というだけでもかなり律法が専門の一派なのですが、その中にさらに律法の専門家がいました。かたや、儀式が専門のサドカイ派も、神殿でいけにえの動物を売ったり献金の両替をしたりする人から大祭司に至るまで、祭司・レビ人の分業が細かくなっていったようです。

どの分野でも専門化が進むというのは必然的な宿命のようです。今年アメリカのベースボールで起こった出来事はそれに逆行するような、滅多に観られないケースでした。一人の選手が投げて打って走るという出来事がプロフェッショナルなレベルで起きました。こんなことは100年に一度だから歴史の証人として見ておこうという人たちが多くいたよう

です。ということは、これからはこんな選手が当たり前になるとは考えられていない、近代野球は専門化が進む、打つ人投げる人はもちろん、代打や代走やバントだけ、ピッチャーも先発・中継ぎ・押さえ、右バッター専門、左バッター専門の分業化が進むという傾向が続くだろうと考えられているようです。

それでも一つのことだけ分かりました。というか思い出しました。野球を始めた子供の頃は、投げて打って走っておもしろかった、ということです。アメリカでは、ベースボールファンが減り、フットボールやバスケットボールのファンが増えて来たのはなぜか、一つのヒントになったようです。チャップリンの「モダンタイムズ」という映画がありますが、機械化された近代の工場では、一人の人が一つの部品を一日中担当するのでおもしろくないという社会風刺です。全体として何を作っているのか、楽しめないからです。

イエス様当時のユダヤ教も、律法主義と儀式主義に分かれて、さらに細分化していたわけですから、一人の人が律法も教えれば儀式もする、一人の人が預言者でもあれば祭司でもあるという、ファリサイ派とサドカイ派の合併みたいなことは、考えてもみなかったことです。もちろん、この方はメシアでありますから、油注がれた王でもありました。

この方の聖書の教え方は、大変ダイナミックでおもしろく魅力的です。きょうの箇所で言えば、51節「アベルの血から、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血にまで及ぶ。」です。　アベルの血は、カインとアベルのあの事件のことで創世記の始め、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血というのは、ユダヤ人が持っていたヘブライ語旧約聖書では最後の書物が歴代誌で、その中に書かれた事件です（歴代誌下24：21）。今、私たちが持っている聖書では、小さい預言書のマラキ書が最後ですから、そういう読み方にはなりにくいのですが、ユダヤ教徒には大変分かりやすい教え方です。旧約聖書の始めから終わりまでなされた不当な殺人事件をずらーっと並べて、殺したのはあなたがたの先祖だと言いました。なぜなら、神が最後にお遣わしになった者を、あなたがたは今、殺そうとしているからだと言われました。そのとおり、その方は彼らに殺されたのですが、逆にそれが聖書全体に渡る神のシナリオでした。旧約聖書の全体像が、律法主義ではなく福音主義であることが見えてきました。

49節に「私は預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する」とありますが、これが旧約聖書のどこに書いてあるのか見つけにくいので、新共同訳聖書は新約聖書の関連個所を参照箇所に挙げています。「預言者や使徒たち」という言い回しが新約聖書的だからでしょう。しかしこれも、歴代誌下の最後の方にあります。36章15-16節「先祖の神、主は御自分の民と御住まいを憐れみ、繰り返し御使いを彼らに遣わされたが、彼らは神の御使いを嘲笑い、その言葉を蔑み、預言者を愚弄した。」

Ⅲ　内側を清めよ

きょうのイエス様の話は当時のファリサイ派の人々に言われたのであって、今の私たちに言われていることではないと、言えるでしょうか。いいえ、2021年間の教会の歴史にも

あったことですから、今でもありえます。自分にはファリサイ的なところはないか、自分の内側を見つめて悔い改める人は幸いです。聖霊のお働きによって悔い改めの信仰を起こされた人は、内側から清められます。